

## 母子愛育会と愛育班の皆さまへ

母子愛育会と愛育班をはじめ、妊産婦や子どもたちの健康な暮らしを守るために力を尽くしてこられた皆さまに、深い感謝の気持ちをお伝えします。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が広がる中、3月2日に宮邸にて母子愛育会の活動の報告を受け、その後も資料や電話を通して、また6月25日にはオンラインで、母子愛育会や愛育班の状況への理解を深める機会を得ました。



愛育病院は新型コロナウイルス感染症の防止に細心の注意を払いつつ、昨年と変わらず月に約250件の分娩を扱い続けてきました。同時に、妊産婦や子どもの健診と診療をおこない、他の医療施設からの緊急搬送などを受ける総合周産期センターとしての役目を担っています。そのような中、新型コロナウイルス感染症が深刻化して以降は、軽症・中等症の新型コロナウイルス感染症と判明した子どもの入院治療を実施するとともに、感染が判明した保護者の子ども、あるいは感染者と濃厚接触した保護者の感染の有無の判定期間に何らかの症状がある子どもの一時的な預かり入院をおこない、PCR検査や症状に対する治療にもあたりました。

また、愛育クリニックにおいては、愛育病院と連携して妊産婦や小児の健診・診療、外国人の妊産婦のための産婦人科外来、妊産婦とその家族を中心とした歯科診療をおこなっていますが、新型コロナウイルス感染症に対応するため、内科・小児科を予約制にし、受診を適正な人数に抑えつつ、乳幼児健診や予防接種を受けやすいよう、6月からは平日に加えて、月に2回、土曜日にも実施しています。

いずれの施設でも、医師、助産師、看護師などの医療専門家のみならず、事務、受付や配膳、掃除・リネン交換などに関わる職員も協力して、最善を尽くしています。そして、生まれてくる子どものためにも健康に気をつけている母親や、入院・通院をする子どもと家族の気持ちに配慮し、丁寧な説明やきめ細やかな電話相談をおこなっていると聞きました。

保育所のナーサリールームと特別支援学校の愛育学園へは、この春に伺いたいと思っておりましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底が求められる施設に迷惑がかからないよう、控えました。その後、様々な地域の保育所や特別支援学校の状況を報道など

で見聞きするたびに、全国の保育士や特別支援学校の教員、家族などが抱える困難に思いを馳せ、案じておりました。

今回、緊急事態宣言の発令を受け、ナーサリールームでは、登園の自粛要請中も、消毒の徹底や距離の置き方などの感染対策をできる限り工夫しながら、医療従事者など、家庭での保育が困難な子どもの保育を続け、在宅の子どもと保護者への支援もおこなってきたと聞いております。また、登園自粛の終了に備え、密を避ける工夫などを行っているそうです。

愛育学園は5月までは閉園していましたが、オンラインで生徒たちを職員とつなぐなどの工夫をし、どうしても家庭でみるできない子どもは、校長が少人数ずつ学校で預かっていたと聞きました。6月からはクラスを半分に分け、交代での登校が始まり、お互いの距離の取り方やマスクの使い方など、生徒や保護者に寄り添い、生活スタイルを確かめ合いながらすごしているそうです。

愛育幼稚園では、休園中、子どもたちと保護者にむけて、親子での遊び方などにふれたお便りを送るとともに、家での生活について電話でお話しをしたそうです。6月からは分散登園がはじまり、感染を防ぐための検温や手洗いなどをして、子どもたちが園内で元気にすごせるよう、また登園日とそうでない日の生活がうまくつながるように工夫していると聞いております。

愛育相談所では、来所できない人たちのためにオンラインによる遠隔相談が新たに始まりました。地域での家庭訪問が困難になる中、課題を抱えた家庭にとって、本相談所の役割が一層大きくなっていると感じました。愛育研究所では、情報技術も活用し、母子手帳や周産期のメンタルヘルスなどの研究が続けられています。研修部では、7月までの研修は中止になりましたが、9月からの研修の募集が始まったと聞きました。そして、先天性代謝異常症に対応したミルクの供給などをおこなう特殊ミルク事務局では、全国の医療機関への特殊ミルク供給が続けられ、必要な場合は自宅への直接配送もおこなっています。

母子愛育会のそれぞれの施設の職員が、新型コロナウイルス感染症の対策に努めながら大事な役割を果たし、妊娠や子育てに関わる不安や困難に寄り添い、妊産婦や子どもたちの家族の理解と協力を得て、子どもの誕生と成長を豊かな経験と努力で支えていることを、大変心強く思っております。

一方、愛育班では、今年の4月に開催が予定されていた「愛育班員全国大会」は残念ながら中止になりましたが、日頃より続けてきた意義深い活動が、これまでどおりでは難しい状況においても、可能な形でおこなわれているそうです。無理のない範囲で、感染予防や体調管理に十分注意しながら、地域の「見守り活動」をおこない、班員手づくりのマスクを必要とする人々に贈り大変喜ばれたことなどの報告をうれしく聞きました。

そして、愛育班活動を導き支えている保健師の皆さまには、新型コロナウイルス感染症を含む多くの課題がある中、住民の健康を守るため力を尽くしておられます。皆さまのお務めに、深く敬意を表します。

今後も、この厳しい状況の中で、母子愛育会に関わる皆さまとご一緒に、人々の健康と幸せのために努めていきたいと思えます。

暑さが増していく中、お身体をお大切にお過ごしくださいますよう、願っております。

令和2年6月30日